

サ

出会い ふれあい 助け合い

あべの

NO.78

サロン・あべの十一月の出会い

平成四年十一月二十一日(土)

こちらの手違いから、急ぎよ会

私の健康法

場を育徳園三階の幸分ホールに変更し、サロン・あべの十一月の出会いを開催した。(いつもとは違う会場ということ、机

や椅子の配置に手間取り、参加者の方々には、騒がしい雰囲気のまま例会を始めてしまったことを、おわびします。)

十一月のテーマは「私の健康法」。今月は講師の方にお話をさせていただくのではなく、参加者全員によるフリートークとした。

健康な人ほど、その健康について意識しないものである。しかし、どこかに障害をもっていたり、ある程度の年齢を迎えてくると、体を良い状態に維持していくための何か(健康法)が必要になってくる。

今月初めて参加された方も多かったため、まず自己紹介をし、その後、それぞれの健康法などについて話し合った。

まず、ほとんどの人が、体重を増やさないことに神経を使っていた。これは、単に成人病の予防ということではなく、本人の足腰に負担をかけないため

あり、また、介護をされる場合にも、介護者に少しでも負担をかけまいとする考えである。

体に障害があると、どうしても運動不足になりがちである。しかし、その余ったカロリー分について、食事の量を減らしながら、同時にカルシウムやビタミン、食物繊維などの必要量を取るというのは非常に難しいことである。

スポーツやジョギングとはいかなくても、その人に合った体操をすることや、少しの距離でも歩くことが、毎日の健康維持につながるものである。さらに、家の中に閉じこもらず、なるべく外出しては、太陽の光を浴びることもひとつの健康法といえる。体を冷やさないこと。あまり疲れないようにすること。よく寝ること。そして、くよくよく考え込まず、日頃から明るく生活することなどが、健康でいるために必要なことのようにある。

また、食べ過ぎてはいけませんが、食事をおいしく楽しく(ただし、野菜をなるべく多く)いただくことも……

最後に、体に障害があったりすると、少しくらい体調が悪くても、ついつい我慢してしまい、なかなか病院には行かない人が多い。しかし、早めの受診が、万一の大病を発見し、その後の治療を短く軽いものにしてくれるのである。

ここ数年間の暖冬から、この冬は一気に寒くなるという予測が出されている。さらに体調に気を付けていただきたい。
参加者二十七名。
司会およびまとめ、上平幸雄。



わたしの健康

十一月の出会いには「私の健康法」について、参加された皆様にお話をしていただきましたが、これに先だってサロンのパネラーをしていただきました先生方に「私の健康法」をお問ねしました。

現状維持をいつまでも

井上 憲一

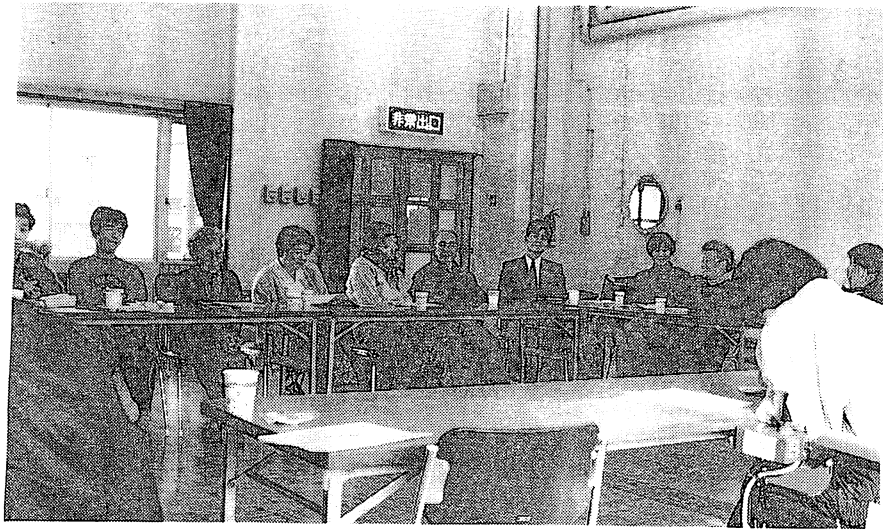
小学生の頃、私は学校で先生から「人間の一番大切なものは、何か。」と質問を受けた時、私はすかさず「お金」と答えて、

みんなから大笑いを受けた事を覚えています。しかし、十代、二十代、三十代と過ぎてきて、四十歳になった今日「健康」の大切さをしみじみと、感じてきています。私としては、特別な健康管理(特別なお茶とか、特別な食べ物とか)は全くしておりません。

特に言えば、適当に酒を飲み、適当な時間に眠り、適当な時間に仕事をし(原稿はギリギリまで延ばし)、自由奔放な生活をしている事が、一番の健康の原因かな? 現在まで大きな病気も無く(障害者になつたのが、一番の病気かな?)。こんな私なので、病気の方が恐がって、逃げて行く

ように思います。

四十五歳、五十歳、六十歳の時も、このような文章や、しゃべる事が出来ていけば、いいなあと思います。



サロン・あべの十一月の出会い

元気でがんばっています

今井 清行

ご返事が遅れ、申し訳ありません。

健康について、皆様にお伝え出来る様なことはありません。

堺市では今秋より、堺市障害者就労促進協会（グッドウイルさかい）を創り、ちえ遅れの人々の職業訓練、身体障害者の就労促進事業を堺市（全庁的な協力）との共同で始めました。私も常務理事でがんばっています。

健康の秘訣

上野谷 加代子

幼少時から、あまりじょうぶでなかったので、母が私に野菜ジュースを飲ませたり、栄養には、ずい分気をつけてくれていました。まずは「あまり、じょうぶでない」と思うことが健康の秘訣かと思えます。

しかし、仕事と家事、育児等々、続けて来ますと、疲労もたまり、とうとう身体を

こわし、入院・手術のはめになりました。

入院歴は、数回ですので病気とはじょうずにつきあっています。大きな手術をして、初めて家族の大切さ、他の方々の思いやりや、やさしさを身にしみて感じました。人間というのは、失うものがあってやっとなるといって、おろかな存在です。

一言で秘訣をいうとすると、「眠ること」「おいしいものを安く食べること」かな？

私の健康

川嶋 雅 恵

このハガキをいただいた時、まず思ったのは、これは何かの間違いであるということでした。およそ「健康」とは程遠いのではないかという私に、このような依頼が来るといふのは…。

私は二次障害のために（CPにありがちな二五歳を過ぎてからの障害ですが）頸椎が少しずれています。そのために前はよく仕事のしすぎのため（私は仕事をギリギリまでしないので、徹夜をして原稿を仕上げるといふことがよくありました）首や肩が

痛くなり、動けなくなることもありました。現在では、倒れてしまうと、仲間に迷惑をかけたり、仕事がたまってしまうのでためないようにはしているのですが…。

夜はなるべく早く寝るようにしています。食事野菜を多く摂るように心掛けています。しかし、今も、月一回程度のリハビリ(頸椎)は欠かせません。これは上手につき合うしかないようです。

バランス重視

北田 伸彦

ごぶさたしております。

さて「健康管理の秘訣」ということですが、私は「精神的疲労と身体的疲労のバランス」を考えて生活しています。

仕事の内容や性格・行動パターン等により、どうしても精神面のみ疲労しがちなので、体が元気でも心がクタクタという状態になった時には、腕立て伏せとか、腹筋とか、とにかく体を酷使して体の方もクタクタにして、フトンに沈み込むようにして眠り(時間よりも深さを重視!)、心身両面

のリフレッシュを図るようにしています。

対処療法であって予防的ではないのですが、現在のところこれ位しか…

これからますます寒くなってきましたが、皆様、お体をお大切にしてください。

とにかく眠る

中島 博

エー お久しぶりです。

∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙七七号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、七七号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六―六九一―一〇二八)

相変わらずのご活躍の様子で、うらやましい限りであります…。

エー 私の健康法ですか、フーム。

別に取り立てて「なし」なのであります。「アツ アカンナァー」と感じた時は、とにかく寝ます。p.m六時だろうが、とにかく寝ます。

でも、これは健康法ではありませんが…。変な解答になりましたが、ご免なさい。又、お会い出来る時を楽しみにしております。

おしらせ

1月の出会い

日時 1月16日(土)午後1~4時
内容 「'93新しい年新しい出会い」
会費 ¥2000.(予定)
会場 お申し込みの方に、後日連絡をさせていただきます。
申込み '93年1月8日迄
問い合わせ先 TEL. 06-691-1028 (富田慶子)

過ぎゆく時に

過ぎた時は帯のようにつながっているのではない。去年のひとときが昨日のひとときよりも、あざやかに浮かびあがり、少年の頃の光景が数日前のそれよりも深く心に染み込んでいることがある。

「昨日のことに思いだす」という言葉は、おそらく正確なものではなく、昨日のことであっても忘れてしまふことは多い。

過ぎた時は帯のようにではなく、数珠(じゆず)のようにつながっているのだ。その珠(たま)は不ぞろいで、あるものは大きくあるものは小さい。数珠の珠を数えるように過ぎたときをふりかえれば、過ぎた日のあり様が、ひとつひとつ私たちの脳裏によみがえる。

数珠の珠をかぞえていけば限りがなく、過ぎた日の思い出もまた限りがない。珠を指先でたどるように過去に思いをよせれば、私たちは何度もくりか

えし、過ぎた時間の輪のなかをめぐることができる。

年老いた人は時を長く生き、長い思い出をもつのではない。過ぎた時が数珠の珠のようにつながっているのだとしたら、時の振りかえりは少年と比べて大きな違いがあるはずもない。幼い子が年老いた人よりも振りかえる過去が少なく誰がいえるだろう。たとえ幼い子が年老いた人のように思い出に沈まないとしても、それはおそらく過ぎた陰よりも目の前の光に心を奪われていくからにすぎない。

過ぎたときが、ひとつひとつの珠と変わり、その繋がれたものを私たちがたえず身につけているのだとしたら、珠となつていくものは何なのだろう。それは思い出なのだろうか。私たちの過去は、まるで水晶玉にうつった幻影のように、ひとつひとつが完結した光景となつて、珠となつていくのだろうか。

その珠は誰が見るのだろう。誰に見えるのだろう。水晶玉に映る運命が、ジプシーの占い師たちにしか見えないように、私たちの首や肩にかかる過ぎた時の珠には、私たちひとりひとりにしか見えない光景があるのだ。

その光景を分かちあうことができる人がいたら、どんなに幸いなことだろう。分かちあえない思い出は、ひとりひとりの幻影と変わりが無い。

ひとが長い間ともに生きてきた人との別れを惜しむのは、過ぎたときが珠となり、そこに映される光景が、分かちあわれる機会をなくして、幻影にかぎりなく近づいていくことを知るからであろう。過ぎた時を幻のように失うことはすべてを失ったように感じるものだ。

時が私たちの身体を土に戻すとき、私たちの生命(いのち)は、生き残つた人びとの、時の珠の中に残る。その光景が分かちあわれるかぎり、その珠は実在のものとなり、私たち自身も時の流れをこえて生きることになる。私たちが幻になるのは、分かちあいが失われた後のことなのである。(知)

ブリギッテさんからの手紙

Inna, 12. 10. 92

Dear Keiko!

Thank you very much for your last letter. Today I am staying in Bonn again for the days Friday, Saturday and Sunday. This weekend is a longer and therefore harder weekend than the other weekends with a psychological training. But in the evening I always find some time to write a letter to you.

At first I went to answer to your questions: 1) I don't need a wheelchair for many years. By the time it in the first time after the "schlagenfall". I walk without any help. In spite of I can loose my balance quickly, I try to walk along each way. I put a photo of my person to this letter. This photo is taken in July 1992 in the city of "Darmund". I am sorry, but I haven't a photo of Bonn. I will try to find some photos and will send it to you in a next letter.

I hope you can recognize me, because my body has been changed very much after the last operation. I've lost 30 pounds of my body-weight in one year. I am very happy about this, because I feel very good with the new shape.

2. The second question is more difficult for answering: what I learn in the psychological training? It is a form of therapy: behavioral therapy. This means you can learn strategies to form or change the behavior of children or adults. This training is a precondition to work in therapy in Germany and therefore it is necessary for my job. But I enjoy this training, too. This weekend I can learn much about my own person, for instance how I am looked by other people. This is very interesting.

I hope you can understand my answers. I am also interested in your activities, for instance whether you can work in a job. I also like to get a photo of your person. Have you been changed in the last year, too? I wait hopefully for your next letter!

With best wishes

Dear Brigitte



ふれ愛

上平 幸雄

空の旅 ⑤

翌八月二十六日と二十七日の二日間は、現地の電動車椅子をレンタルしてもらい、試乗することになっていました。

日本の電動車椅子よりもスピードが出るとは聞いていましたが、構造がシンプルでとても軽快に動けるようでした。それに日本のもので、動くときに音がほとんどしないのです。おそらく日本の電動車椅子の方が丈夫だとは思いますが、自分の好みや必要に応じて、速さやデザインをもっとたくさん選べるようにしてほしいものです。今日は最初に、カリフォルニア大学バークレー校へと向かいます。

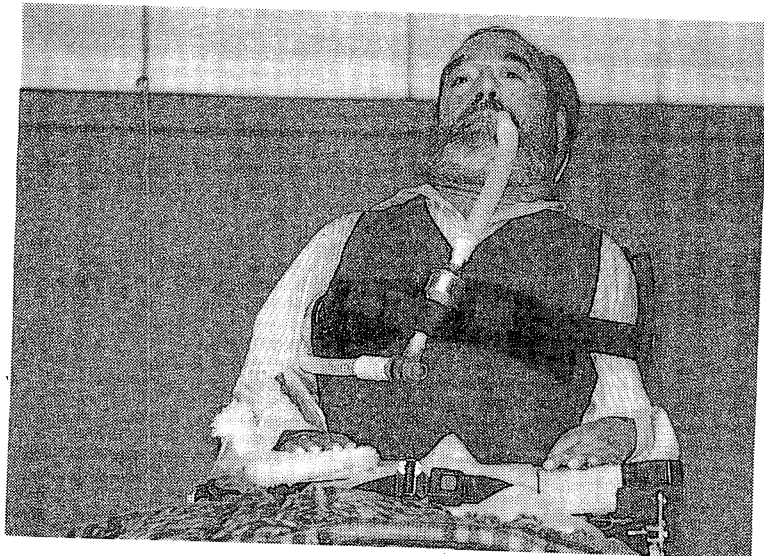
UCBと略称されるバークレー校ですが、有名なUCCLAを含むカリフォルニア大学の本校なのです。十人以上もノーベル賞受賞者を輩出しているほどレベルの高い大学です。また、その誇りから学生達はここを

「Car」と呼んでいます。今は障害者運動のメッカとなったバークレー。しかし、60から70年代にかけては全米の学生運動の中心地でした。そういう自由な雰囲気をもっていた「Car」が、もしここになければ、今のバークレーもここにはなかったと思います。CILに代表されるアメリカの先駆的な障害者運動はこの「Car」から生まれたと思います。

この日は午前中、大学で八百人(大学全体の学生は三万人)もいるという、障害をもった学生に対する援助プログラムについての説明を受けました。

障害をもった学生が、他の学生と平等に生活できるよう、様々なサービスが用意されています。また、それらのサービスは大学の予算で行われていて、ほとんどが無料なのです。逆に、このサービ스에就いている学生にとっては、良いアルバイトになっています。無償のボランティアに頼っている日本とは、だいぶ違うようでした。

昼食は、思い思いの服装で、個性的な学生が歩いて行くのを見ながら、このキャンパスの中でお弁当を食べました。学力は別



CIL初代所長 エドワード・ロバーツさん

にして、もう十歳くらい若ければ、ぼくもバークレーを目指したかもしれません。午後からは、CIL(自立生活センター)の活動を中心に、マイケル・ウインターさ

ん、ジュディー・ヒューマンさん、エドワード・ロバーツさんなど、日本でも有名な方々から説明をしていただきました。

CIILの具体的な活動やシステムについては、大阪府立大学の定藤教授の論文を



美智子のこんな話



岸田 美智子

施設改革ガイドライン(案)について ①

いつも、施設の状態をいろいろ書かせてもらっていますが、今回は今、市との施設協議会で討議中の入浴・食事・トイレについての(施設改革ガイドライン)案を掲載してみます。

この施設協議会とは、大阪市と市内にあ

んでいただきたいと思えます。しかし、ぼくが特にひかれたのは、CIILの運営理念である「障害者の専門家は障害者」ということです。ピア・カウンセリングのように、自立生活の先輩である障害者が、その体験

に基づいて、これから自立生活をしようとしている障害者に、アドバイスをするのです。残念ながら、日本ではまだまだ、障害者への援助は、健常者がするものだ、という考え方が強いように思います。

る四つの入所施設の施設長、そして私達側の三者が同じテーブルについて施設改革に取り組んでいこうとしています。このガイドラインは出来上りしだい、小冊子にまとめ、公表されたり、施設職員の研修内容に使われたり、大阪市が行う監査項目に盛り込まれたりする予定です。もちろん、施設運営にもいかされていく予定です。

ぜひとも、一人でも多くの人の声を盛り込んでいきたいと思えますので、これを読まれた方からの感想や意見など、お待ちしています。量が多いので今回と次回に分けて、掲載していきますのでよろしくお願います。

1. 施設の実生活実態 ○食事の状況

メニュー選択は、「バイキング方式」(四種類ぐらいから選べる)を取り入れている施設もありますが、ほとんどの施設は選択できず、みんなが同じ料理を食べるようです。

また、多人数であるために盛りつけや配膳などに時間がかかり、温かいものを温かく、冷たいものを冷たく食べられません。なかには保温配膳車を備えている施設もあります。また少数です。

・食事時間が決められており、時間帯の短い施設が多いようです。夕食は一般の生活に比べて早く、五時ごろ。外出時などは食事をとって後で食べられる施設もありますが、食事介護が必要な障害

食事・入浴・トイレについての

改革ガイドライン(案)

者は「外食してくること」と決められているところもあるようです。

- ・食器はすべてプラスチック製で味気なく個人持ちはできません。

- ・人手が足りない施設では職員一人が三人ぐらいの障害者の食事を介護することがあります。

- ・調理の様子を見たり、買い物も含めた食事づくりをほとんど体験できません。

○入浴の状況

- ・お風呂の回数は、週に二〜三回で、入浴にかける時間は一人五分ぐらいという施設が多い。男風呂・女風呂と区別している施設は少なく、たいていが時間帯で男・女と分けています。

- ・脱衣場が狭い施設では廊下や居室で着替えが行われたりします。

- ・職員の人手が少ないため体をきっちり洗ってもらえなかったり、あがってから待たされたりします。

- ・また職員は寮母(女性)が多いため、男性障害者の介護を女性がするところがほとんどで、中には女性障害者の介護を男性するところもあります。

○トイレの状況

- ・トイレの個室にドアやカーテンがついていない施設があります。また、ドアやカーテンがあっても介護の時に使ってもらえないことがあるようです。介護のしやすさが優先され、プライバシーが守られない実態があります。

- ・職員の間をはずくため不必要におむつをさせられたり、トイレ介護を頼んでも三〇分ぐらい待たされたりします。

- ・お風呂と同じく異性介護が行われていません。

2. 改善の基本視点

食事・入浴・トイレは、誰にとっても日常生活の基本であり、健康管理のベースになるものです。とりわけ障害者にとって、食事・入浴・トイレの保障は、生活していく上で、最も重要な課題であると言えます。

地域での介護の保障が乏しいために、障害者は「毎日外食に頼らざるを得ない」「長い間お風呂にも入れない」「長時間、トイレをがまんせざるを得ない」といった厳しい現実を抱かえており、その結果、体をこわす人も多いと言えます。

障害者の多くは、健常者とともに地域で安心して暮らしていく事を望んでいます。



しかし、地域での介護や住宅などの保障はまだまだ不十分で、障害者は、好むと好まざるにかかわらず施設に入らざるを得ない状況があります。

施設では、日常的に介護などの保障がありますが、「自立を保障していく」という観点が弱いために、障害者が自分で生活を組み立て体験する機会はほとんどありません。そうした中で障害者は「食事・入浴・トイレの介護を親や施設職員にしかしてもらった経験がない」「いつも受身で、それらの介護を他人に指示した経験もない」といった状況があり、自分の生活に責任を持ち得ない現実が、自立をより困難にしています。また、施設側の都合や職員配置などによって生活が組み立てられており、生活主体としての障害者の立場に立ったプログラム、内容はいまだに確立されず、

生活の質は低いようです。

障害者が自分の体調を知り、管理していくことは、自ら主体的に生活していくことを抜きにしては考えられません。施設生活の主人公は障害者であり、受身の生活から主体的な生活、本人の意志が尊重される生活へと転換していくことが求められています。「あぶない・できない」という理由で障害者は「与えられるだけの生活」の中で多くの経験を奪われ続けてきました。「施設で生活する」「地域で自立する」に関わらず、一人の人間としてあたりまえな生活を味わえるように保障していくことは、施設・行政をはじめ社会的な責務であり、そうした観点に立って、一方で障害者と一体となって、自立に向けた環境を人的・物的に整備・向上していくことが求められています。

次回からは具体的に、食事・入浴・トイレについての改革案を掲載していきます。

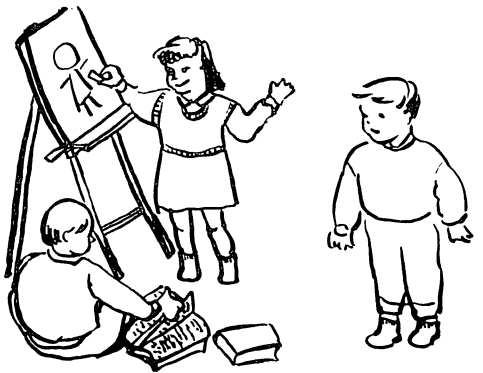
*連絡先〓施設の障害者

外出サービスネットワーク

〒五五八 大阪市住吉区大領五十一十六

電話 ○六一六〇七一八二六〇

FAX ○六一六〇七一五五〇三



「私の地球、私の仲間」絵画展

この度、サロン紙(七七号)に原稿を寄せて下さった関幸子さんが「障害者の日」NHK福祉キャンペーンの一環として催された「私の地球、私の仲間」絵画展に入選されました。

これは「国連・障害者の十年」最終年に関連して国内外より障害を持つ人達の絵画を公募されたもので、国内一〇〇点、海外三〇点(世界十四カ国)の入選作品と、特別招待作品二〇点とで、「ともに生きる」との意味をもう一度問う展覧会となっています。絵画展の開催は、東京(12/4・23)をかわきりに浦和、札幌、大分、福岡、名古屋と巡回されて行きます。

備えあれば憂いなし

「火の用心」は常に誰もが心掛けている事ですが、万が一にはという不安は身体の不自由な人にとって、日々気になっていることだと思えます。

そこでこの度、耳よりな話を伺いましたので、お知らせします。

阿倍野区では、阿倍野区在住の一人住いか、夫婦共障害のある肢体不自由者の方の家に、スプリングラー(自動消火器)を阿倍野区社会福祉協議会より希望者宅(定数二〇件)に設置(二カ所〓台所と居室等)されることになりました。

希望される方は、阿倍野区肢体協会の小嶺会長までお申込み下さい。

*小嶺会長宅電話〇六一七一四一九〇六六

井 感謝 します 井

カンパ・冊子・お菓子等
ありがとうございます。

お礼を申し上げます。

十一月のカンパ 金二五、五〇七円

秋野富美子、大北博子、金子花江、

関幸子、竹内新作、灯、匿名二名。

(敬称略)

あっちゃんのシングルライフ

8

山本 篤江

ひとり暮らしの後ろにあるもの
一人になって、しばらくたったある日のことでした。

その日は、たまたまどこにも出掛ける所もなく、部屋でござごそしているうちに、ハッと気がつくと、昼過ぎになっていました。そして、今日は一回も外に出ていないし、誰にも会っていませんでした。寂しいというより、ドアを開けると周りは焼けた野原で、自分だけが一人ポツンと、取り残されているような気がしてきて、思わずドアを開けて外へ出てみました。
生れて初めての味だったことのない、何とも言えない不思議な気持ちでした。
でも、寂しいというのは、また違うような気がします。

原田仁氏の「Volunteer Center」は、今月お休みします。

こんなん 見つけたよ!

いつか「なかとかしてユクナ」の欄でフンタッチで開閉する傘があれば...と書いてましたが、見つけましたよ。
開閉式の雨傘です。



開くときは、持つところを音が出るまで押して、ボタンを上にはげるとサッと開きます。閉める時は、同じボタンを下に下げると簡単にしまります。

ただし、ふつうの傘より重たいし、ボタンを押すときも少し力がいります。それが出来る人は、すごく便利です。

まだ、たくさん生産していないのか、値段の方も少し高くなります。

○値段：四五〇〇～六〇〇〇円

○売っているところ：梅田のロフト

五階の傘うりば。

○色：紺、緑、えんじの無地か、チェック

(Y)

みどり教室作業所では、通常作業のほかに障害を持つ人達が、下記の内容で色々なおけいこを楽しんでいます。心のゆとりを各々の想いで創ってみませんか。

— * — * — * — * —

お茶 (裏千家) のおけいこ
月2回水曜日午後

お花 (池ノ坊) のおけいこ
月3回水曜日午後

編物教室 毎週月曜日午前
手芸教室 毎週木曜日午前
会 費 月¥1000.
(全科を含む)

送 迎 リフト付車有り
場 所 育徳コミュニティセンター
みどり教室

問合わせ 育徳園
☎06-621-1901 内
みどり教室月～金
Am10:00- PM4:00

ナンペイの

ひとこと&ふたこと 番外編

今回は、風邪気味のナンペイに代わりヒトコにリリーフしてもらいます
ごめんなさい ナンペイ

ナンペイと仁子の「ハウステンボスウレシイ」の話

ここ二年ほどは、夫婦二人で遠くへの旅行するチャンスがなかなか巡って来なかったのですが、八月のある日一通の封書が舞い込んだのです。それは私たちが機能訓練のため入所していた府立身体障害者センター同窓会「こだま」の「佐賀吉野ヶ里遺跡と長崎ハウステンボス」への旅行の案内だった。私たちが前々から行って見たかった所なので少しの迷いもなく参加する事に決めたのですが、いよいよ行けるとの返事が返って来るのがなかなかだったのです。が、日々が過ぎ秋風が快い十月出発の日がやって来ました。いよいよ「ハウステンボスウレシイ」への出発です。

大阪南港からフェリーで門司まで行き、あとは観光バスであちこちを観て回る楽し

み盛り沢山のコースでしたが、まず最初の見どころは「瀬戸大橋」。フェリーの甲板から見上げた目の前に連なる雄大な瀬戸大橋。それを潜って行った時の感動は忘れられません。

翌早朝、フェリーは新門司港に到着。私たちはバスに乗り込み太宰府天満宮参拝と吉野ヶ里遺跡見学へと向かいました。

バスの中でもガイドさんも添乗員さんもとっても感じの良い人達で、そこに「こだま会」きってのユーモア人の役員さんたちが加わり、和気あいあいの楽しい車中となりました。

太宰府天満宮は私には二度目の参拝だったので何だか懐かしく学生時代の修学旅行を思い出していました。そして何気なく引いたおみくじはなんと「大吉」で益々気よくしたのです。

次に見学に訪れた吉野ヶ里遺跡では、ポ

ランティアのかたのお蔭もあって「堅穴式住居」の中まで入ることが出来ました。復元された「堅穴式住居」の中は、汗ばむほどに穏やかなそとの秋日和にもかかわらずひんやりとしていて、古代の人達の現代では考えも付かないような質素で厳しい生活に思いを巡らしていました。

その日はそのまま宿に向かいホッと一息



夜の宴会も盛り沢山の「ごちそう」を眼の前に皆さんの自慢の喉をカラオケで聞かせてもらい、なかでもボランテアの人、「大阪で生まれた女」の歌声は素晴らしく、それにもまして通称「かっちゃん」が歌ったジュディ・オングの「魅せられて」はユーモアたっぷりの歌い方と振付のまねには大笑いさせられてとっても楽しいひとときでした。

翌日は、待ちに待った「ハウステンボスウレシイ」の当日です。

オランダの街の一角を切り取って、長崎にそのまま持ってきたような「ハウステンボス」。その名前はオランダの女王の館から来ているそうです。

ゲートの前でバスを降りると、添乗員さんからみんなにパスポートが渡されます。入場券の代わりで、もちろん本物ではありませんが、いかにもオランダのどこかの街にやって来たような気持ちにさせるシャレたやりかただなあ、と思いました。

ゲートをくぐるとたくさんの方々の民族衣装を着た人達が出迎えてくれたのですが、とりわけ目を引きつけたのはあちこちに立っている「人形」です。でもこれは「生きた人形」で、実はいろいろなポーズを取りなが

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

交通安全教室

この秋にも、こんごう寮では交通安全教室の一環として、実施訓練を行いました。

週末に単独帰省している人を中心に、寮から砂川駅まで安全に歩行出来るか、職員がチェックしました。



た。

私も、三叉路の横断歩道に監視で立ったのですが、寿命が縮みそうな思いでした。

自転車も車も、関係なしに歩く人とりあえず、前を行く人の後ろをついていくだけで、何も見ていない人。今まで、よく無事故だと感心しました。

これも、偏に地域のドライバーの方達が「この辺りは危ないぞ」と注意して下さっているからだ、感謝を覚えた一日でした。

らぎうっーと動かないで、まばたきさえもしていないように感じさせてくれている「生身の人間」だったので。

そんな「生きた人形」さんたちと何枚か写真を撮りました、あとでその写真を

見てみるとやっぱり「生身の人間」と見えるのです。あんなに「人形」らしく見えたのにカメラを通してしまうと、ちゃんと血の通っていることが分かってしまうんですね。「人の眼」のほうに興味だということ

も不思議だと思いました。

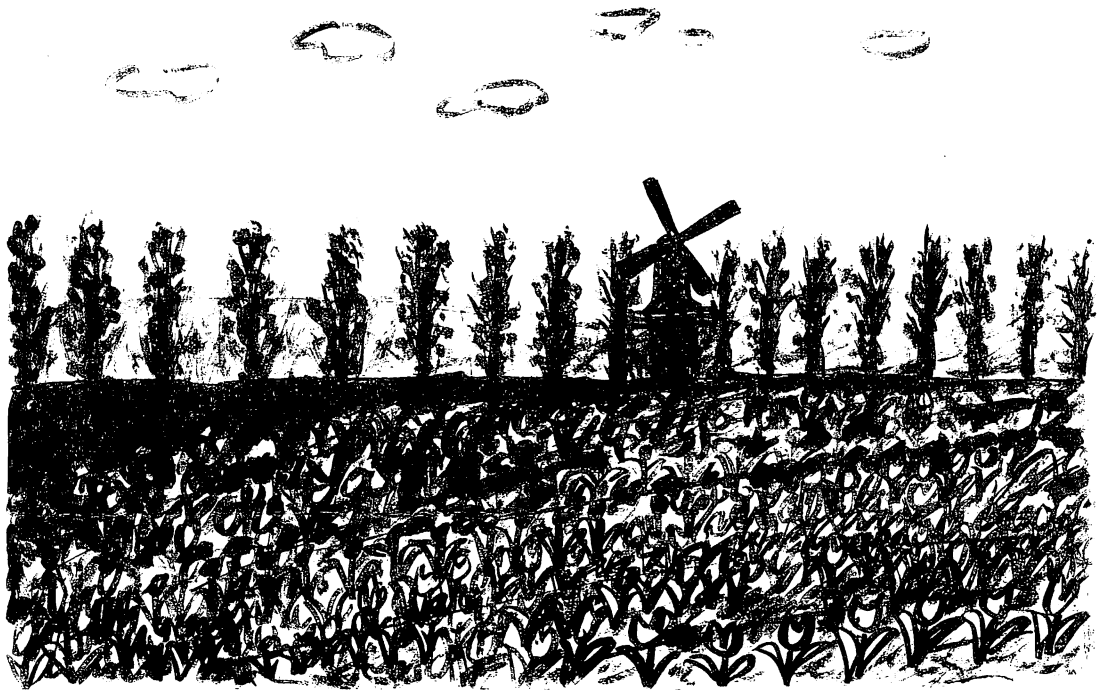
時間の都合で、ハウステンボスの中では案内係つきのリフトタクシーで一周したこと、レストランでの食事、四、五軒のみやげ物の店を見物しただけで終わってしまいました。オランダの雰囲気は感じ取れたように思います。

その夜は熊本のホテルにとまり、翌日は「天草五橋」を渡ったり佐世保のまちを通ったりして西九州の名所のほとんどを見て回って、夕方いろんな楽しい思い出と一緒に福岡空港から大阪へ無事戻ってきました。

他の参加された方達は、それぞれに介護をお願いできる人と来られていたのですが、私たち夫婦は厚かましくも二人だけで参加させていただき、「こだま会」の役員さんやボランティアの方々一人一倍のお世話をおかけしたと思います。

お礼の言葉を皆さんにお伝えしたいのは勿論のことですが、ほんとうに心優しい人達に支えられて生活できていることの私たちの「幸福」を、改めて感じさせてくれた旅行だったと思っています。

南光仁子



編集後記

11月の出会いに大阪ボランティアセンターのボランティアスクールを修了された方がみえました。この方たちが中心になって新しい「サロン」が出来るといいですね。

ドイツのブリギッテさんから写真が送られて来ました。手紙がより身近かに、親しみ深くお読みいただけるのでは・・・。

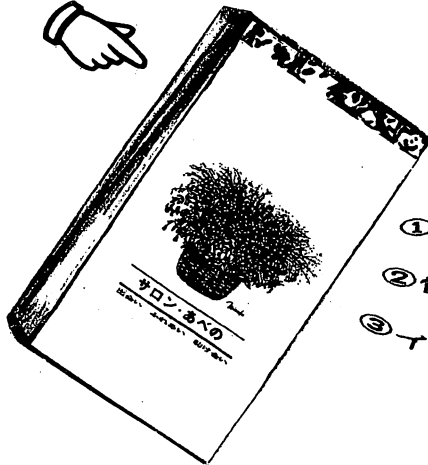
(石)

(好評)

サロンの『メモ帳』 増刷出来ました

- 草花の密やかな囁きとやさしさが花籠いっぱい描かれた表紙が好評。
- システム手帳のスペア用紙にも使用出来る大きさが好評。
- ペンすべりのよい高級紙が好評。

出会いの楽しさ、一言の言葉の喜びを伝えてくれる《メモ帳》。
「サロンの《メモ帳》」と言ってお求めください。
○1冊(100枚綴)・・・¥150.



- ①システム手帳にも使えます
- ②便せんにも使えます
- ③インクがにじみません

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.78['92.12. 5 発行] 定価¥100.
代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表 題；斉藤孝文・筆
印 刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

毎月11日(二・四・六・八の日)発行 一九九一年九月三日第三種郵便物認可